

宮子姫、有間皇子、湯川氏一族

歴史文化特集 偉人は2人追加

御坊商工会議所は、情報発信拠点として平成28年10月に中町2丁目商店街に開設した「御坊寺内町会館」

「御坊206」のメイン展示物を、宮子姫や有間皇子、湯川氏一族など「御坊の歴史・伝統・文化特集」にリニューアルし、「偉人コーナー」も新たに2人追加した。開設から1年3カ月で4000人近い来館者があり、片山隆館長は「御坊の魅力をより一層発信していきたい」と話した。

御坊版シンデレラ物語の宮子姫は「劇団RAKUYU」が平成18年、19年のミュージカル公演で使用した衣装を展示し、今後も関連資料を追加。県指定文化財(史跡)「岩内1号墳」の被葬者として有力な悲劇の

寺内町会館展示一新



宮子姫や有間皇子など歴史文化特集

皇太子「有間皇子」は同じく22年、23年のミュージカル公演で使用した衣装をはじめ、長年、有間皇子と1号墳の関係や7世紀の古代史

などを研究し、顕彰や情報発信に努めている東山の森Ark(東睦子代表)から借用した発掘当時の新聞や各種埋葬品の資料、絵画を

展示。このほか、近世の寺内町繁栄の様子や江戸時代後期の日高別院修繕に関する寄進台帳の写本、美浜町吉原の旧家に伝来する幕末から明治初年の作とみられる道成寺縁起絵巻の色つき絵巻と、市内の呉服店が所有する昭和初期に京都の絵師が描いている途中で戦死したため未完となった絵巻、中世の豪族湯川氏一族に関するパネルなどを展示した。常設の「御坊の偉人コーナー」は「ハス博士」の阪本祐二氏、「ふるさと」の地学研究の木下信之氏、「哲人政治家」の田淵豊吉氏に続き、新たに清高の画家「のり高昌克氏」、「養鶏産業の先駆者」の吉田八五郎氏を追加した。

日高、御坊商工甲子園出場特集 学校教育・地域振興コーナー展示



懐かしい日高、御坊商工の甲子園出場

学校教育・地域振興コーナーでは、日高、御坊商工(現・紀央館)両高校野球部が、全国選抜高校野球大会に出場した「甲子園出場の軌跡」を展示している。日高は第28回、61回、64回、御坊商工は33回、53回、58回の大会にそれぞれ3回出場。入場行進の写真や記念週刊誌類をはじめ、日高は61回大会に右翼手として出場した選手の帽子やユニフォーム、御坊商工は53回大会に一塁手として出場した選手のユニフォームの背番号など当時の活躍ぶりがよく分かる資料を並べた。

を展示。吉田八五郎氏は明治43年に藤田町吉田で生まれ、全自動養鶏システムを開発するなど日本の養鶏産業のトップとして業界発展に貢献した。情熱を持って日々の仕事に傾注した資料や写真を展示。会館は寺内町散策の拠点のひとつで、開設以来37

47人(1月末)が訪れており、片山館長は「今後とも御坊の魅力をより一層身近なものと感じていただけたら」と話している。開館日は毎週火・金・土・日曜日と祝日。開館時間は午前11時から午後4時まで。